



安心のネットワーク
NOSAI

No.2

農業技術情報

令和5年4月発行

発行：秋田おばこ農業協同組合／秋田県農業共済組合仙北支所
監修：仙北地域振興局農林部農業振興普及課



JA秋田おばこ

苗焼けに注意

播種後、緑化期までは急激な温度上昇による“焼け”に注意をしてください。無加温出芽で被覆物（ベタ張り）をかけている時に、一時的な強い日差しでもハウス内温度はかなり上昇し、苗焼けを引き起こす場合があります。床土内部に温度計を設置し、床土温度が30℃を超えないように温度管理します。また、新しい屋根ビニールは日光透過率が高くハウス内温度が上昇しやすいため、新調した方は外気温が低くてもハウス内温度（床土温度）には注意が必要です。

省力と健苗育成に役立つプール育苗

プール育苗は、水管理や温度管理が短縮されるだけでなく、もみ枯細菌病や苗立枯細菌病の発生を抑制することができ、健苗育成に役立ちます。

プールへの入水時期は1.5葉期からで、1回目は床土と同じ高さまでとし、冠水しないように注意してください。2回目以降は箱下に水が無くなる部分が現れたら床土上1cmまで入水し、草丈の1/3以上にはしないようにします。入水間隔は、おおむね5～7日です。

プール育苗では、苗が伸びやすいため最低気温5℃以下にならない限り、1回目入水以降は原則として昼夜ともハウスは開放し、通気を良くします。霜や5℃以下の低温予想時は、夜間はビニール裾を閉め、箱上までしっかり湛水し苗を保温してください。

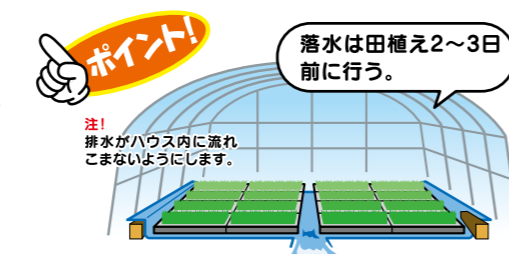
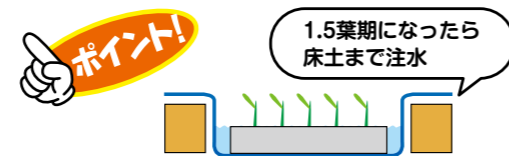
【露地プール育苗の注意点】

- ・加温出芽を基本とします。
- ・箱を並べたら緑化させるためラブシートを被せます。夜間は手持ちの被覆シート等を被せて保温し、朝になったらラブシートを残して被覆シートを剥ぎます。
- ・入水時期、入水後の管理は通常のプール育苗と同様です。
- ・遅霜を受けてしまった場合、日の出と同時に速やかに散水し、葉の表面の霜を落としてください。

【注意点】

プール育苗では、一度病害が発生してしまうとプール内全ての育苗箱に感染する恐れがあるので、早期発見に努めます。育苗箱搬入時などに、プールに使用するシートに穴を開けないように注意してください。

水稲育苗後に野菜などを栽培する場合は、育苗期に使用した農薬や排水がハウス内に浸透しないようにしてください。



育苗期における主な苗立枯病

病名	ピシウム菌(別名:ムレ苗)	
症状	出芽後、地際が水浸状に褐変、急激にしおれ枯死、カビ発生無。	
原因	温度管理と水掛方法(急激な温度差、日中の水掛)。	
対策	タチガレエースMかナエファインの使用、日中の水掛はくみ置き水を使用し温度差を解消。	

病名	フザリウム菌	
症状	発芽直後～、根・地際部褐変、黄化枯死。地際部白又は紅色の粉状カビ。	
原因	過度の乾湿、昼間30℃以上夜間10℃以下の管理。	
対策	タチガレエースMかナエファインの使用、温度管理、肥料切れ注意。	

病名	リゾープス菌	
症状	種子層・床面に白いカビ。出芽・生育・根の発育不良。	
原因	過度の乾湿、出芽期間32℃以上の管理、育苗資材の不衛生。	
対策	育苗箱・出芽器の洗浄、施設清掃、播種時の水量確認。播種時タコニール1000かダコレート水和剤、ナエファインの使用。出芽期間の温度管理。	

病名	もみ枯細菌病	
症状	新葉基部と葉鞘部が白色～淡黄色→腐敗枯死、新葉は容易に抜ける。坪枯れ症状。	
原因	循環催芽で発生拡大、出芽温度が32℃以上、被覆資材の二度掛け、育苗資材の不衛生。	
対策	エコフィットの使用、発生確認した場合、発病箱をハウス外へ隔離する。	

基本技術の実践と土づくりで異常気象に負けない 高品質高位安定収量目指す

令和5年産の稲作が始まりました。近年頻発している異常気象に対応するには基本技術を実践していくことが重要です。今月は健苗育成と土づくりを重点的に実践していきましょう。

今月の栽培技術留意点

健苗育成

健苗を田植えすることで、気温や除草剤に負わずに素早い活着をすることができます。そのためには、育苗管理が重要です。

床土温度30℃以内厳守、カビが出にくい換気徹底、こまめなハウス内温度管理が病害防ぐ

土づくり① 耕 深

土中の養水分を吸収し、異常気象下でも実りを下支えしてくれる根の活力を維持する土づくりをしましょう。

耕深15cm確保、耕起は土塊を残しながら土をほぐす

土づくり② ケ イ 酸

ケイ酸は登熟歩合向上だけでなく高温低温日照不足でも稲の生育をサポートしてくれます。ケイ酸肥料に含まれるアルカリ分は、田植え後の還元状態の土を中和しワキを抑えることもできます。管内水田土壌ではケイ酸が不足している圃場が大多数です。少量からでも継続的な投入が高位安定収量に繋がります。

ケイ酸は60kg/10a以上投入

土づくり③ 異常還元対策

土中の未熟有機物が多いと気温上昇とともに分解が始まり、ガス発生や土中が酸欠状態となり稲の生育に影響を及ぼします。今年は、前年作のワラが多いうえ、高騰肥料の代替として堆肥等有機物投入もあり、異常還元(ワキ)発生の危険性が高まっています。

耕起までに乾田化を進める、ケイ酸肥料等の散布、土中に酸素を供給する水管理

令和5年3月発行No.1の一部訂正

P4「省力減農薬育苗の決定版プール育苗」注意点 3つ目の「●」

正：霜や低温が予想される場合は、夜間は裾を閉め、箱上まで湛水します。

誤：霜や低温が予想される場合は、夜間は裾を閉め、箱上まで落水します。

安心のネットワーク
NOSAI から

農機具共済

稼動前に

※点検と
※加入で

《春期》加入運動実施中!

- 1台当たり2,000万円まで加入OK!
- 買い替え報告はお忘れなく。

ゆとりの農作業で 安全運転を!!



健苗育成が高品質米づくりの第一歩

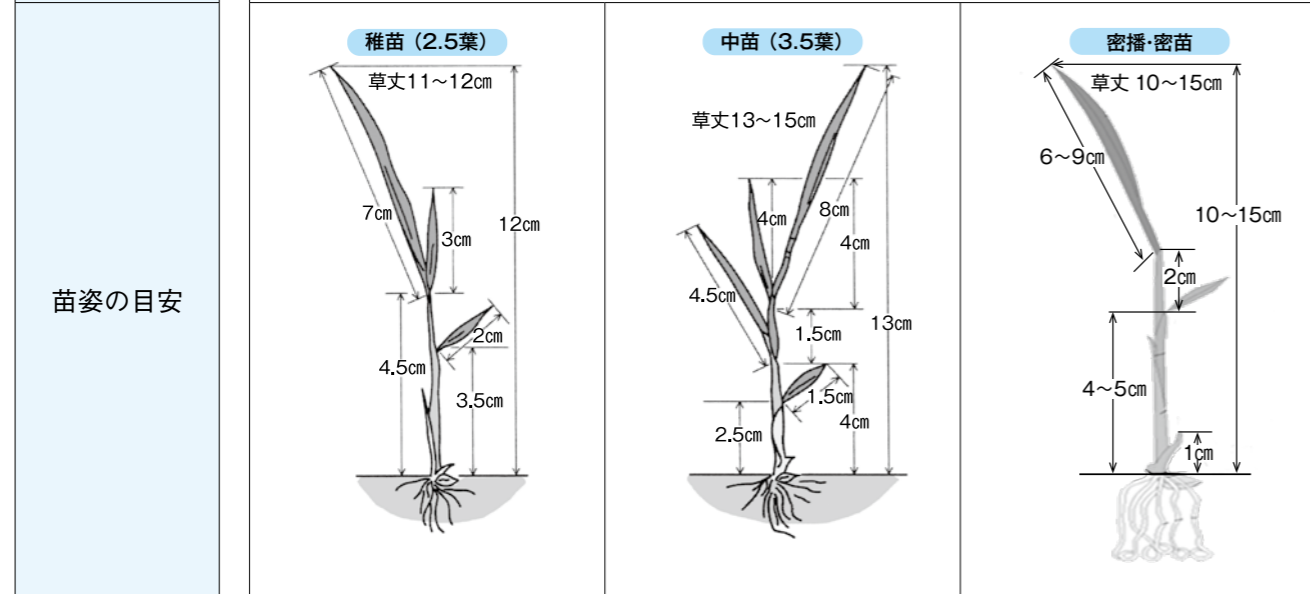
田植え後、素早く活着し初期生育のスタートダッシュを切るためには、健苗育成が欠かせません。目標とする苗質を確認して、健康で元気な苗となるように管理をしてください。

無加温出芽で被覆物（ベタ張り）除去後や育苗器から出芽苗をハウスに並べた後は、覆土の持ち上がりを落とす程度のかん水をします。また、露出した種籾があったら見えなくなる程度に覆土します。

育苗期間はかん水と床土温の差が少ない日の出から午前10時頃までの間にたっぷりとかん水します。夕方に行くと床土温度を下げるうえ、過湿になるため控えます。やむを得ず日中や夕方にかん水する場合は、予めハウス内で水を貯め置きしておいた水を使用し、温度差によるストレスを与えないようにします。

出芽後の苗は低温よりも高温に弱いので、当日の天気予報を確認しながらハウス内の温度管理を徹底させてください。

種類	稚苗	中苗	密播・密苗
育苗期間	20～25日	35～40日	14～21日
葉数	2.5葉	3.5葉	2.3葉
草丈	10～13cm	13～15cm	10～15cm
必要箱数 (10aあたり)	70株……19箱 60株……16箱 50株……14箱	70株……22箱 60株……19箱 50株……16箱	70株……8箱 60株……7箱 50株……6箱
播種量	乾籾：144g/箱 催芽籾：172g/箱	乾籾：80g/箱 催芽籾：96g/箱	乾籾：300g/箱 催芽籾：360g/箱
出芽	無加温出芽（ベタ置き）の場合 週間天気予報を確認し、気温傾向に合わせた適切な被覆資材を選択すること。床土温30℃を超えないように温度管理を。		
	加温出芽の場合 出芽長を伸ばしすぎないように。出芽長が長いとその後の生育も徒長気味に生育しやすくなります。蒸気出芽の場合、水槽の水が無くならないように確認を。		
第1葉鞘長	3.0～3.5cm	2.5cm程度	4.0～5.0cm
緑化期 ※中苗は播種後20日間	昼：20～25℃		
	夜間：10～12℃	夜間：5℃以上	夜間：12℃以上
かん水のポイント	苗が若いときは、体が小さく、水を吸う力も弱いので過剰なかん水は避けること。多湿になると酸欠になり、立枯病を誘発させてしまう。苗の大きさに合わせて朝イチにしっかりとかん水させること。		
硬化期 ※田植え1週間前頃から	昼：開放		
追肥	夜間：5℃以上		夜間：10℃以上
	追肥をしっかりと行い、元気な苗を植えましょう。 ※右ページ参照		



苗もち防除を確実に実施

いもち病菌は、乾燥状態の稲わらや籾殻に付着し越冬します。育苗ハウス周辺に潜んでいるいもち病菌が苗に移ることで発生を助長しますので、周辺の清掃を行い、種子消毒、育苗期防除を組み合わせることで清潔な環境で作業を行い、本田持ち込みを阻止してください。WCSや飼料用米も必ず苗もち防除をしてください。

薬品名	防除時期	使用基準	使用回数	備考	タフブロック併用
ベンレート水和剤	播種時～播種7日頃	500倍液 500ml/箱 1000倍液 1000ml/箱	1回	かん注	×
ビームゾル	緑化始期	500倍液 500ml/箱	1回	かん注	○

※ベンレート水和剤の苗もち防除時は使用回数1回までです。 ※ビームゾルはWCSへの登録がないため、ベンレートを使用する。

大きく育った苗に弁当持たせて素早い活着

田植えの1週間前に弁当肥として追肥を行います。苗が栄養不足状態で田植えをすると活着（発根）に時間がかかってしまい初期生育に影響します。田植え時期に低温や曇天が続くような場合は必ず追肥をしてやりませ。苗をよく観察して葉数や葉色に応じた追肥を行ってください。

育苗期追肥の目安（箱当たり窒素g）

葉齢	稚苗	中苗
1.5葉期	1g	—
2.0葉期	—	1g
3.0葉期	—	1g

育苗追肥資材例

資材名	現物量	窒素成分	水量
液肥2号	10ml	1.0g	1,000ml
サイコー12号	8g	1.0g	—

※サイコー12号は散布後にかん水を行います。

もみ枯細菌病対策

もみ枯細菌病対策は、種子消毒とエコフィットを使用しましょう。また、病原菌増殖に適した環境を作ってしまうと発生が多くなるので、薬剤防除とあわせて、そうした環境を作らないようにしてください。

もみ枯細菌病を増やさない環境

- 厚播きはしない。
- 出芽温度32℃を超えない。
- 被覆期間を過剰に長くしない。
- 出芽後の再被覆はしない。
- 緑化期以降は25℃以上にならないようにする。
- 過湿にしない。

エコフィット適用作物と使用方法

作物名	希釈倍率	使用液量	散布時期	使用回数	使用方法
水稲	100倍	—	催芽時	1回	24時間浸種
		1箱あたり500ml	播種時		灌注
水稲育苗箱	10倍	1箱あたり50ml			

今年も雑草は生えます

昨年、どこの田んぼにどの雑草が発生したか覚えていますか？除草剤は多くの種類に効果があるものと、効果が限定的なものがあります。用意した除草剤があなたの田んぼに生えている雑草に効果があるのか今一度確認してください。

- ◎初期剤では代かきから7日以内、一発剤では代かきから14日以内の散布が効果的です。
- ◎除草剤に記載されている「ノビエ○葉期まで」という表記より-0.5葉を目安に早めの余裕を持った除草剤散布をしてください。
- ◎田植え期間が長期に渡る場合は「除草剤散布日」を必ず設定し作業計画に組み込むようにしてください。除草剤散布は「タイミング」です！

除草剤散布適期例と雑草葉齢進展の目安

- 除草剤散布は雑草が見える前に散布することが基本です。
- 気温状況により、葉齢進展速度が早まります。

雑草葉齢進展の目安	代かき後日数	防除可能葉齢												効果限界葉齢				防除困難葉齢			
		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
ノビエ	ノビエ	散布適期を逃さない			1.0葉			1.5葉			2.0葉			2.5葉				3.0葉			
	ホタルイ	散布適期を逃さない			1.0葉			2.0葉				3.0葉									
除草剤散布体系	初期剤＋一発剤	代かきと移植・除草剤の間はできるだけ短く！			初期除草剤				一発処理除草剤												
	一発剤のみ	一発処理除草剤																			